

論壇

経済政策 市場任せを反省

岸田内閣が発足して「新しい資本主義」についての議論が広がってきた。政府も「新しい資本主義実現会議」を立ち上げ、新内閣の目玉となるような経済政策を模索している。「新しい」という呼称をつけているのは、これまでの市場任せの経済政策への反省がある。岸田文雄総理自身、「市場原理主義」に強く反対してきた。ただ「資本主義」という言葉を残していることから分かるように、資本主義による市場メカニズムなどには経済の活力を維持することができないという認識があるように

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

広がる「新しい資本主義」議論

だ。日本経済はこの20年近くシリコンバレーのような(非経済的な)社会システムの強さである」と。米国の資本主義については説明するまでもないだろう。それでは非経済的な社会システムとはどのようなものだろうか。この経済学者が例に使ったのが、米国の大学の教育や研究システムであった。世界中から優秀な

の論点について考えてみたい。昔、ノーベル賞を受賞したある米国の経済学者から次のように言われたことがある。「アメリカ社会の強さは、二つの原動力によって支えられている。一つは経済を牽引する資本主義経済、そしてもう一つは教育や研究開発に象徴さ

だ。こうした優れた教育や研究があるから、米国の資本主義はうまく機能している。そして米国の資本主義のパワーがより優れた教育や研究を支える結果ともなっている。

教育と研究 強化し成長を

こうした視点で日本を眺めてみると、その教育や研究のシステムはお寒い状況である。近年ますます状況は劣化していると言ってもよい。日本の資本主義がうまく機能しているのかどうかは別としても、日本の社会がうまく回っていないのは資本主義が原因ではなく、教育や研究などで脆弱な社会システムになっているからだ。社会が持続的に活力を維持するためには、優れた教育と研究開発を持つことが必須の条件となる。これは米国だけでなく、歴史上のさまざまな国で当てはまるように思える。教育や研究開発の劣化が始まると、経済の力も弱くなっていく一方である。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。